



「目くばり、気くばり、心くばり」 感謝の気持ちを忘れずに



照屋食品 社長

照屋 ゆきのさん

てるや・ゆきの 4年前に急逝した夫に代わり、首里の老舗豆腐製造業を引き継ぐ。「豆腐でみんなを笑顔に」をモットーに、企業と地域のさらなる発展を目指す。

那覇市首里の閑静な住宅街で55年続く老舗豆腐屋「照屋食品」。量販店での販売のほか、学校給食や病院・福祉施設などの業務用の豆腐商品も多く取り扱う。「島豆腐に新たな商品価値を生み出し、魅力を伝えたい」。社長の照屋ゆきのさんは持ち前のセンスで老舗のブランド力を引き出し、新たな事業展開を図っている。

2019年、社長に就任した。それまで専務として経理を担当していたものの、豆腐作りも経営も全く分からない。大切な人を失

った悲しみと社長という重責。不安しかなく、廃業することばかり考えていた。

転機となったのは新型コロナに感染し、自宅療養をしたことだ。仕事から離れ、家で子どもたちとゆつくり過ごすことで自分を見つめ直した。会社や自分自身がどれだけ周りの人に支えられているのか。照屋食品が沖繩には必要な会社であることに気付き、腹が決まった。

着手したのはブランド力の強化。会社の長所である徹底した衛生管理、商品力の高さを自信に、まずは企

業イメージをアップしようとして、事務所をカフェのようにおしゃれにし、ブランドロゴを自ら作った。老舗豆腐屋のイメージをがらりと変えたのは柔軟性があり、おもしろいことができそうな会社だと思ってもらえたかったからだ。

事業の幅も広がっている。食品口入の観点からSDGsの取り組みとして、製造過程で出る「おから」を活用し「OKARAちゃんすこう」を同じ首里の新垣力ミ菓子店と共同開発。県の優良県産品NEXT部門で審査員特別賞にも選ばれた。

企業コラボの商品開発は他にも進んでおり、今年も豆腐に合う「首里しょうゆ」を販売予定だ。「他の企業も巻き込んでビジネス展開し、共に良い商品を作り、地域の活性化に貢献したい」と未来を描く。

「スタップの幸福度を上げ、ワクワクすることをたくさんやっていきたい」と笑顔を見せる照屋さん。「明けない夜はない。今暗闇の中においても日は必ず昇る。目くばり、気くばり、心くばり。感謝の気持ちを常に忘れずに」。どんなことがあってもこの言葉を胸に乗り越えていく。



①自身でデザインしたのれんの前に立つ
②照屋ゆきのさん
③「OKARAちゃんすこう」と今年発売予定の豆腐に合うしょうゆ「首里しょうゆ」